



## 本校の歴史その1:創立記念日

No.10 木村理事長・学院長 平成23年度公式メッセージ  
(平成23年5月1日アップ)



## 本校の歴史その1 創立記念日

- ・ 学校に有事があつて「何かを持ち出して逃げねばならない時」に何を持ち出すかと言えばまず「法人の理事長印と銀行印の実印」は絶対だ。あともう一つと言われれば間違いなく「50年記念誌」である。手元には一冊しかないから、真に持ってこれは「貴重品」である。これで本校の成り立ちとその後の歴史が手に取るように分かる。
- ・ 「編集後記」に昭和48、6、8とあり、この頃私は住友金属工業入社後4年目で今回の震災で大きな被害を受けた鹿島製鉄所の駆け出しの技術者として走り回っていた。丁度昭和48年は「第一次オイルショック」があつて日本経済が大打撃を受けた頃でもあつた。トイレトペーパーの買占めに人々が走つた頃である。
- ・ 末尾に「現教職員名簿」というのがあつてそのお名前を追っていたが今や正職員として現在の本校に残っておられるのは教職員筆頭の笠井副校長と事務の女性職員のみさんだけとなっている。教職員の揃つた記念写真があつて私はこちらのほうも目で追つたが分からず、結局さんと呼んで指し示して貰つた。副校長もさんも若々しい。今から38年前の写真だから当たり前といったら当たり前である。
- ・ 字も小さく、一般的に学校の記念誌や周年誌は読みにくいものだから私は時を見てポツポツと本校の誕生から今日までを現代に生きる「私の想定と文章で辿る」とこととした。これは本校で働く教職員、ならびに本校の高校生とその保護者、そして大阪府神社界の若い神職の人々向けである。

- ・ 実は今から87年前の大正12年4月30日、すなわち昨日なのだが旧制浪速中等学校は第一回目の入学式を挙行している。4月30日はそういう意味において本校にとって因縁の日なのである。
- ・ まず今日は「学校の創立記念日」の話題からブログを展開していこう。まず文句からだ。大体「創立記念日」と言っただの学校も休業日にしているが、「この日は学校の歴史を振り返るくらいしたらどうだ」と言いたい。何のことはない、創立記念日とはただの休みなのである。恐らく生徒には関係ない話で授業をすろぞと言ったら喜んで学校に来るのではないか。
- ・ 教職員がただ休みただけだと私は受け止めている。それは後述する体験をしているからだ。考えても見よ。創立記念日と記念日を使うなら「記念になるようなことをせよ」と言っても罰は当たるまい。面白いことに多くの学校が5月の連休のどこかに持ってきている。それはシリーズとして連休にしたいからである。
- ・ 前の府立高校で実際に体験した忘れられないことがあった。着任して1週間前後くらいではなかったか。当時府立高校は完全週休二日制がスタートし始めてどの学校も「授業時間の確保」に教務部はやっきとなっていた。
- ・ それで教務原案として創立記念日を授業日にすべく提案したのだが組合教員を中心に「コテンパン」に否定されて廃案となったのである。私は「びっくり仰天」し、「ああ、これが有名な職員会議というものか」と先行きを嘆息したのを忘れることは出来ない。
- ・ あれから5年経ったが本校でも前述したように創立記念日はある。今日5月1日である。本校とて例外ではなく、「何もしない記念日」である。しかし歴史の何処をチェックしても5月1日と学校創立日とは全く関係ない。今日のブログはここがポイントである。
- ・ 私は今一人静かに考えているのだが創立記念日を「あるべき姿」に変えたいと考えている。ところが「候補がいくつある」のだ。一つは明治15年11月4日に開設された「皇典研究所大阪分所」がスタートした時機を取るという考え方である。そうすれば本校の創立記念日は11月4日と言うことになる。
- ・ ちなみにこの年、明治15年明治天皇は児童生徒に日本の道徳を明らかにして「幼学綱要」を命じ、まとめられて、これが明治23年の「教育勅語」の煥発に繋がっている。明治維新を成し遂げ我国は前途洋々「坂の上の雲」の時代であった。
- ・ 皇典研究所は明治41年に発展的に「大阪国学院」に名称変更し、夕陽丘に校舎を定めて「神職の養成機関」であると同時に「神道精神鼓吹の場」として今日まで存続してきている。現在の大阪国学院は本町の大阪府神社庁ビル内に移転している。
- ・ 随分前に(財)大阪国学院理事長で大阪府神社庁長、大阪天満宮宮司の寺井種伯先生に創立記念日のことを申し上げたら大層喜んでおられ「その通りですよ」と言われていた。本校はこの財団法人大阪国学院から分離独立した学校法人なのである。即ち「元の元は皇典研究所」なのだから創立記念日は明治15年11月4日ではないかという考え方である。
- ・ もう一つは実際に「浪速中学校がスタートした時期」を取る考え方である。大正12年2月28日、設立者、大阪国学院は中等学校の設置を出願した。そして驚くのは一ヵ月後の3月31日に「設立が認可」されている。法律でも何でも認可した瞬間から生きているから、そのように考えれば3月31日が創立記念日となる。
- ・ しかしまだ生徒はいない。4月17日に大阪府から教育主事であった大島鎮治氏が「校長事務取扱」として着任された日を創立記念日とする考え方も妥当である。学校の責任者が存在した日は生徒が居ようが居まいが学校としての業務は開始されたのであるからだ。

- ・そして4月30日に遂に待ちに待った第一回目の入学式が行われた。この日を創立記念日とする考え方もある。「少し違うが無理をしてこの日とする」ことも出来ないわけではない。しかしだ。一回目の入学式の日が創立記念日とは少し違う感じもする。
- ・いずれにしてもこの問題は「微妙」だから一度理事会で議論してみたいと考えている。新校舎が完成したら「第二の創業」となるのでその時に変更する手はある。この方が自然かもしれない。私は個人的には11月4日が創立記念日だと思っている。
- ・日本全国、古い伝統ある学校は「曰く因縁の古い方」を取るのが一般的であるしその方が「歴史には正直」である。大学も同じようなものである。「古く、古く」したが。その方が重みもあって良い。
- ・本校も明治15年11月4日とすれば本年で創立132年となる。ちなみに本校の「多聞尚学館」は旧千早赤阪村立多聞小学校であったが、この小学校は創立が明治7年千早尋常小学校の分校として設立されたから本校より古い歴史を誇っていた。
- ・いずれにしても大正12年4月30日に実際に浪速中学校はスタートした。生徒の募集は府庁で行い、入学試験は「天王寺師範学校」で行ったとある。試験問題が残っていれば面白いのだが、今はそれを探す術さえない。
- ・校舎が間に合わず、結局今の高野線我孫子駅と沢之町の間西側の「元工場の建屋」を借りて「東成郡墨江村仮校舎」と銘打って204名の生徒で「浪速中等学校は出発」したのである。
- ・私はこの地域の古い図面でこの仮校舎の址を探して歩いたがその面影は当然のことながら何処にもなかった。今は住宅街になっている。添付の古い写真を見ると他には建物など何もなく南海の高野線の電車が後ろを走っている。今から87年前の写真である。今は昔、今後このブログにおいて「浪速今昔物語」を語ることにしようと思う。